

「血球減少期の末梢血液像が臍帯血移植成績に与える影響に関する後方視的解析」について

平成 30 年 3 月 8 日

【はじめに】

臍帯血移植においては、移植前処置施行後から好中球回復までの期間の無顆粒球症の状態が比較的長期間持続します。この期間は、自動血球計算器では白血球数の測定は困難であり、血液像においても白血球がほとんど検出できないことが多くあります。しかしながら、この期間に顕微鏡を用いた末梢血液像の白血球分画を評価する臨床的意義については明らかとされていません。そこで、東京大学医科学研究所附属病院に保管している診療情報を用いて、血球減少期間における末梢血液像の白血球分画と臍帯血移植後の経過との関連を後方視的に解析することで、血球減少期間における末梢血液像の白血球分画の臨床的意義について検証することを目的とした研究を実施することにしました。なお、この研究は東京大学医科学研究所倫理委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

東京大学医科学研究所附属病院において 2004 年 3 月以降 2017 年 12 月までに臍帯血移植を受けた 16 歳以上の患者様を対象としています。ご協力いただきたいことは、該当する患者様の診療情報を本研究に使わせていただくことです。

診療情報：末梢血像、年齢、性別、疾患、移植方法、臍帯血細胞数、造血回復、生存、再発、移植後合併症の有無など

なお、本研究にご自身又はご家族の診療情報が使用されることを辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。辞退の連絡を受けた場合、それ以降、患者様の診療情報を本研究に用いることはなく、辞退によって患者様が不利益を被ることはありません。しかしながら、辞退のご連絡を受けた時に、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は結果を廃棄できない場合もありますことをご了承ください。

【研究の方法】

東京大学医科学研究所附属病院で臍帯血移植を行った造血器疾患の方の診療情報を用いて、血球減少期間における末梢血液像の白血球分画及び移植後経過についてデータを集積して、血球減少期間における末梢血液像の白血球分画が移植成績に及ぼす影響を検証します。

【個人情報保護の方法】

診療情報を使わせていただくにあたっては、患者様を識別できないような登録番号を用います(匿名化)。登録番号と個人情報の対応関係を記した表(対照表)

は血液腫瘍内科・分子療法分野の鍵のかかる保管庫にて厳重に管理します。

【研究終了後の情報・データの取り扱い】

個人情報に記載した対照表は、研究終了又は研究成果の発表後、研究責任者が5年間保存した後にシュレッダーにて廃棄します。研究データは、引き続き匿名化した状態で保管します。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報は厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が明らかになることはありません。

【研究組織】

研究責任者

小沼貴晶 血液腫瘍内科 助教

研究分担者

東條有伸	分子療法分野／血液腫瘍内科	教授／診療科長
高橋 聡	分子療法分野／血液腫瘍内科	准教授／副診療科長
加藤 せい子	血液腫瘍内科	助教
磯部 優理	血液腫瘍内科	医員
大岩 真希	血液腫瘍内科	技術補佐員
永井悦子	検査部	臨床検査技師
水上素子	検査部	臨床検査技師
佐藤朋実	検査部	臨床検査技師

【問い合わせ窓口】

この研究についての質問やご自身やご家族のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究への診療情報の使用について辞退されたい場合など、この研究プロジェクトに関することは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。

研究責任者 血液腫瘍内科 小沼貴晶

〒108-8639

東京都港区白金台 4-6-1

TEL:03-3443-8111

FAX:03-5449-5429

E-mail:tkonuma@ims.u-tokyo.ac.jp